

UBERのご紹介 & シェアリングエコノミーの可能性

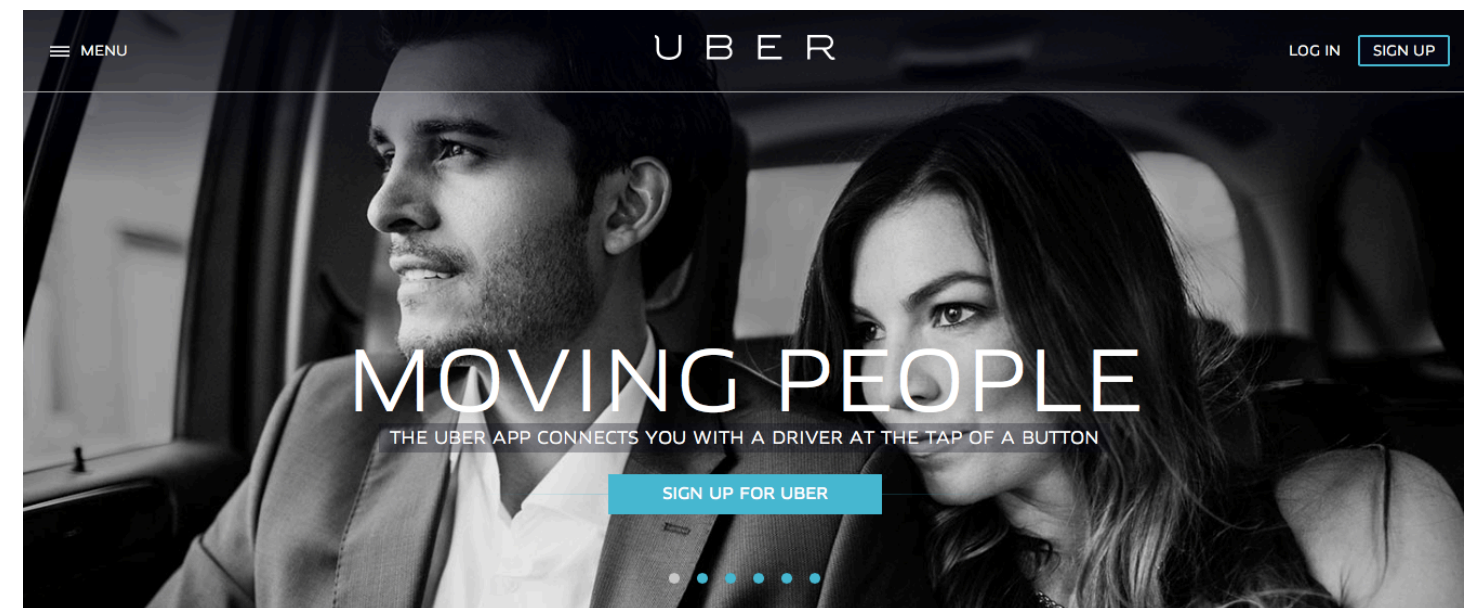
UBER JAPAN 株式会社
執行役員社長
高橋 正巳

Uberとは？

Uberはお客様と車をつなぐプラットフォームを開発し、ITで都市交通のあり方を変えているテクノロジーカンパニーです。

米国本社

- 社名: Uber Technologies
- 設立: 2009年
- 本社: 米国サンフランシスコ
- 代表: CEO トラビス・カラニック
- 地域: 世界60カ国、330都市



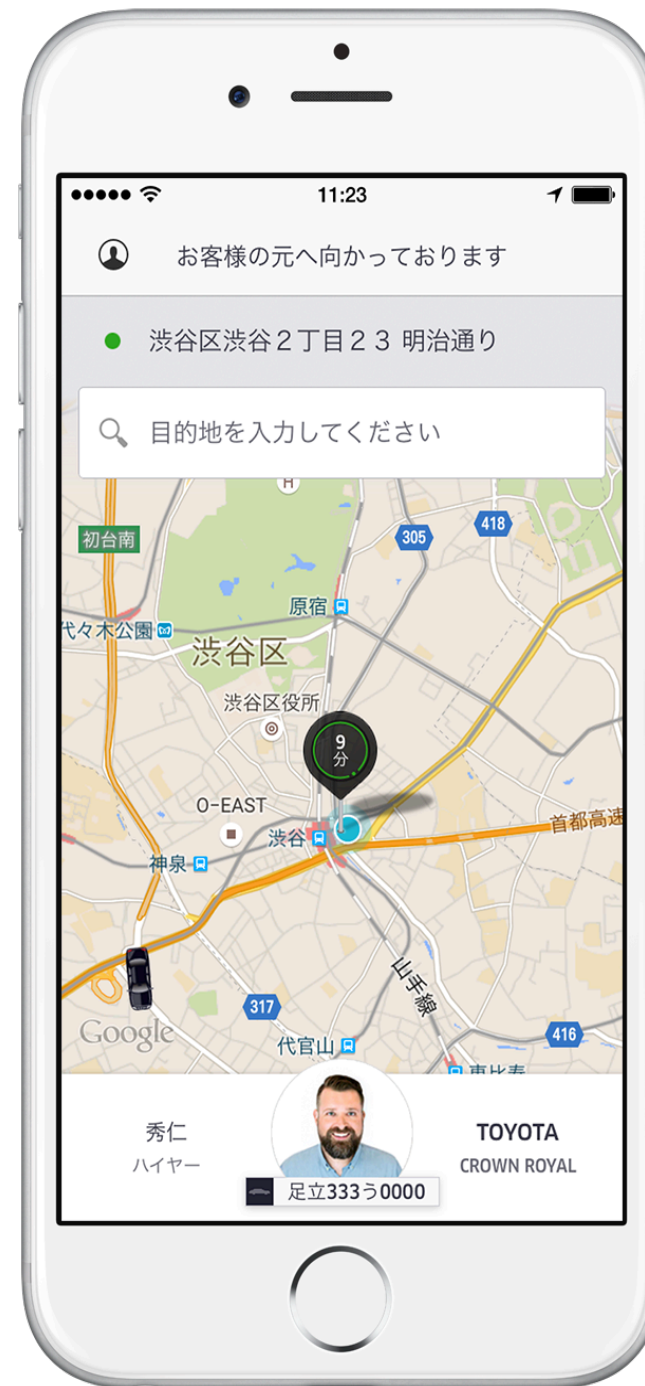
※ Uberプラットフォーム上で、毎日100万回以上の乗車が行われています。

U B E R

Uberの使い方は簡単



1. 配車

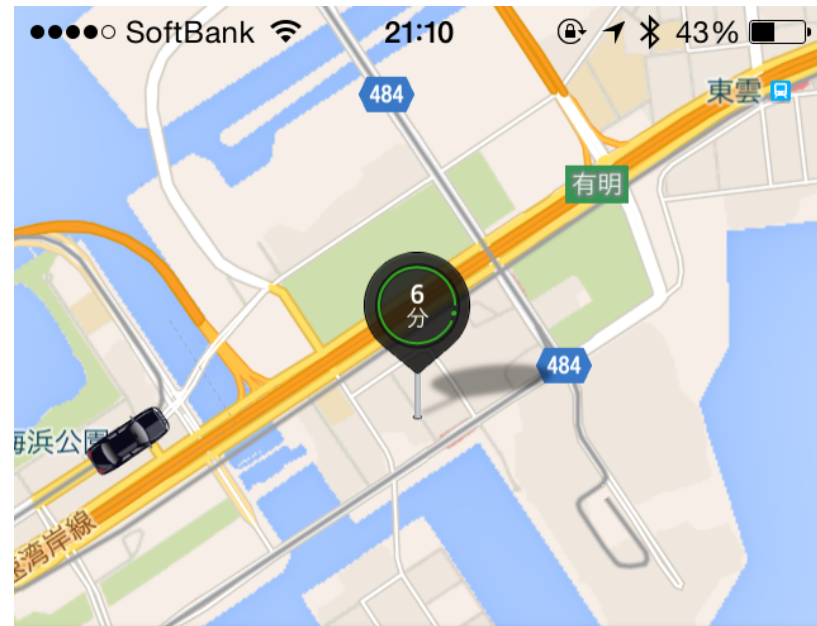


2. 乗車



3. 評価

Uberの使い方は簡単



ドライバーに連絡



予定到着時刻をお知らせ



U B E R

ITで交通をより安全に

UberはITを駆使し、透明性を向上することで、より安全な乗車体験を実現。

- Uberの乗車履歴はGPS情報が記録され、現在地をリアルタイムで共有できる
- お客様には乗車前に、運転者の顔写真、名前、電話番号を表示
- ドライバーは、一定以上の評価を受ける必要がある

グローバルで行っていること:



バックグラウンド、
保険確認チェック



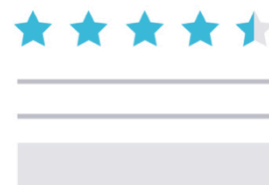
運転者情報の
透明性



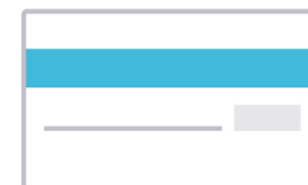
現在地を共有
できる機能



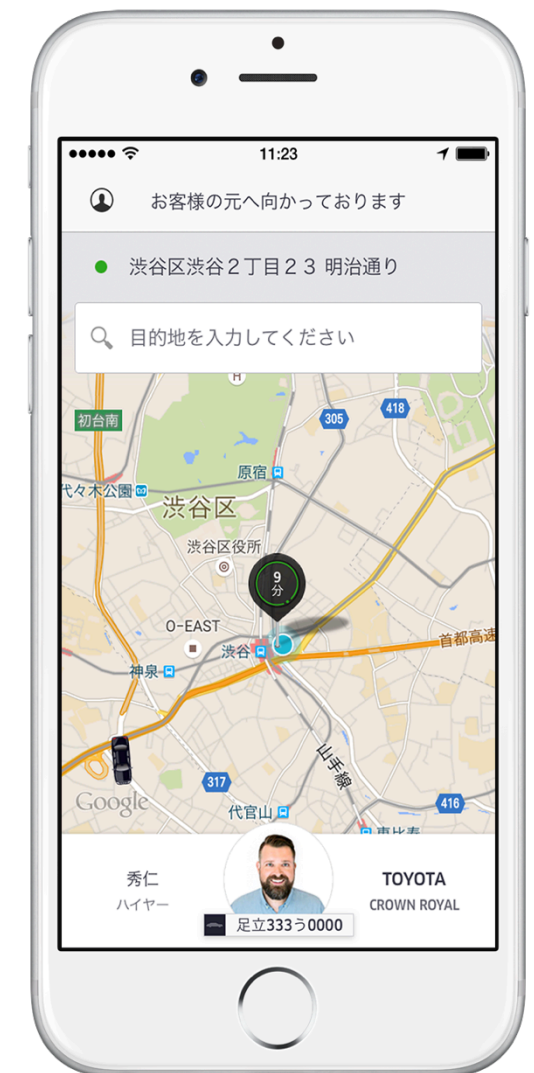
GPS情報の記録



評価システム



乗車履歴が記載
された領収書



U B E R

日本でのビジネスモデル

お客様



----- U B E R -----

パートナー企業様

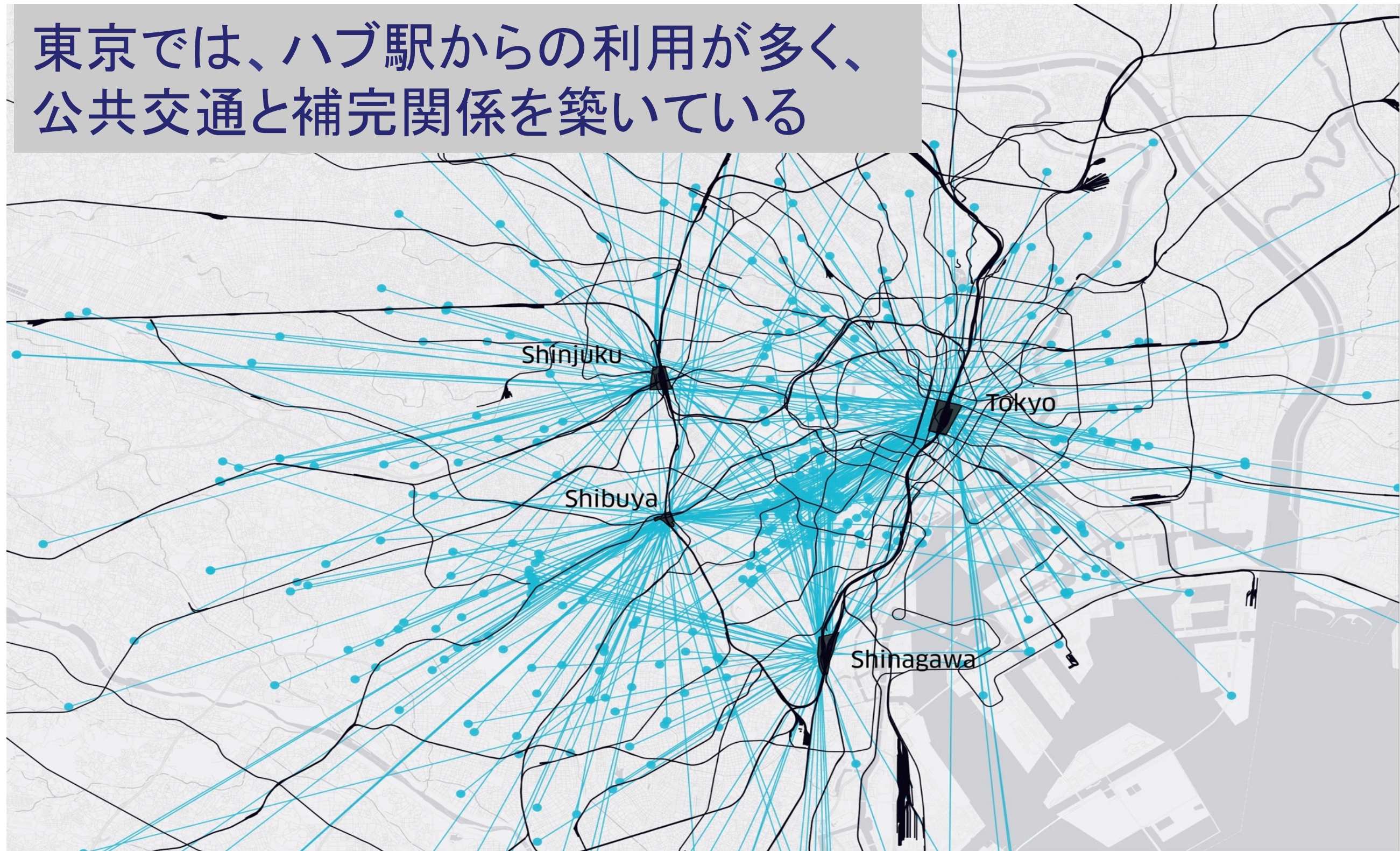


東京都知事登録
第2種旅行業第2-6708号

U B E R

公共交通機関を補完

東京では、ハブ駅からの利用が多く、公共交通と補完関係を築いている



U B E R

世界各地でのUber のサービス(一例)



ハイヤー



タクシー



P2P
(ライドシェア)



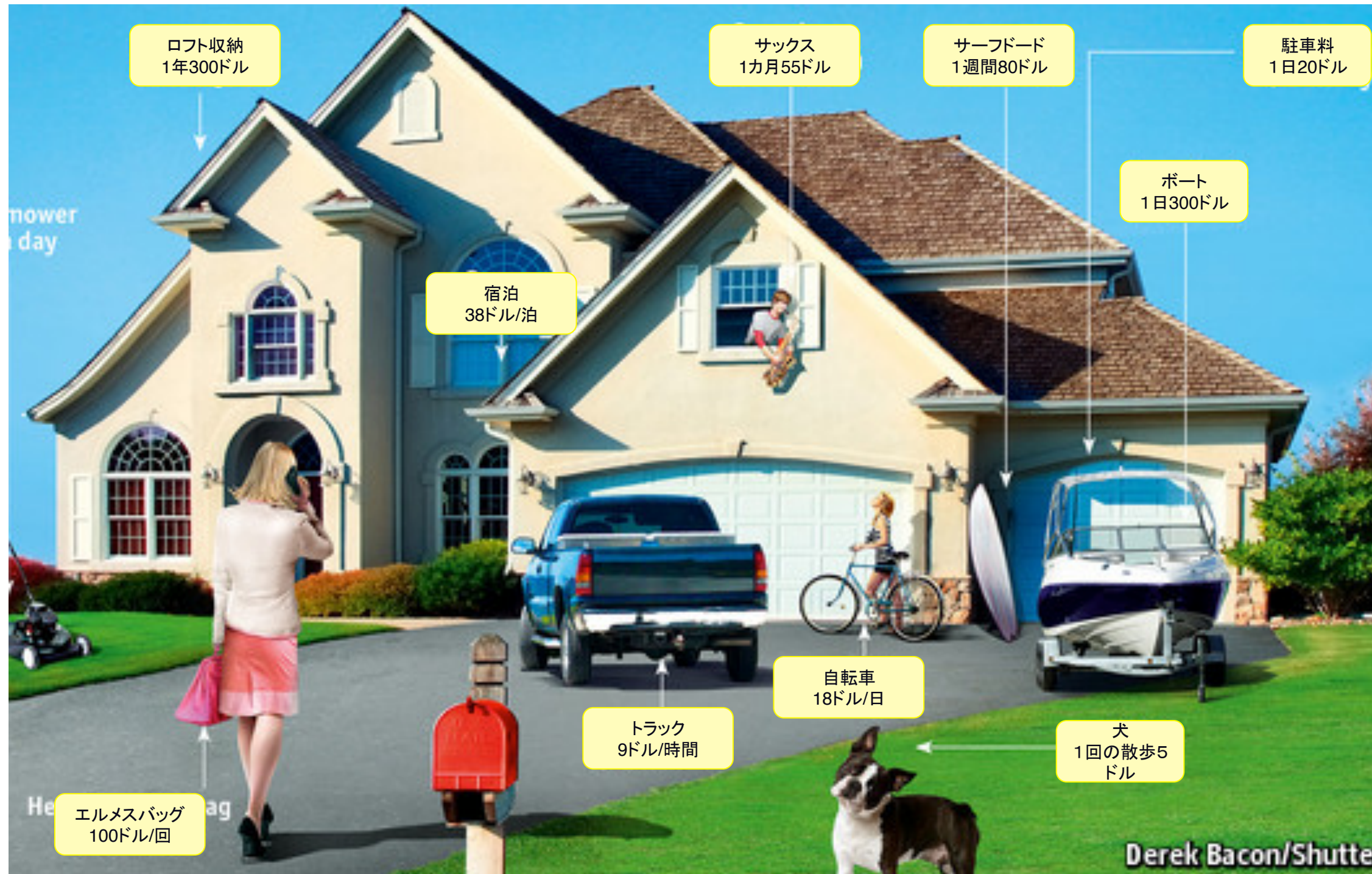
メッセンジャー



ランチ配達

シェアリングエコノミー（共有型経済）

時代は「所有」から「共有」へ



U B E R

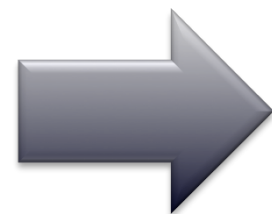
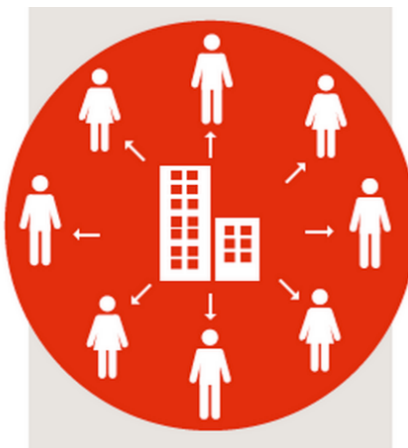
シェアリングエコノミーとは？

インターネットを通じて、個人や企業が、空いているモノやサービス（時間）などを、それを必要としてる人・企業との間で、交換・共有すること。

対象となるモノやサービス（例）：

- ・物理的空間
- ・移動手段
- ・実用品
- ・時間、知識、専門性

従来型の取引：
ビジネス→消費者（B2C）



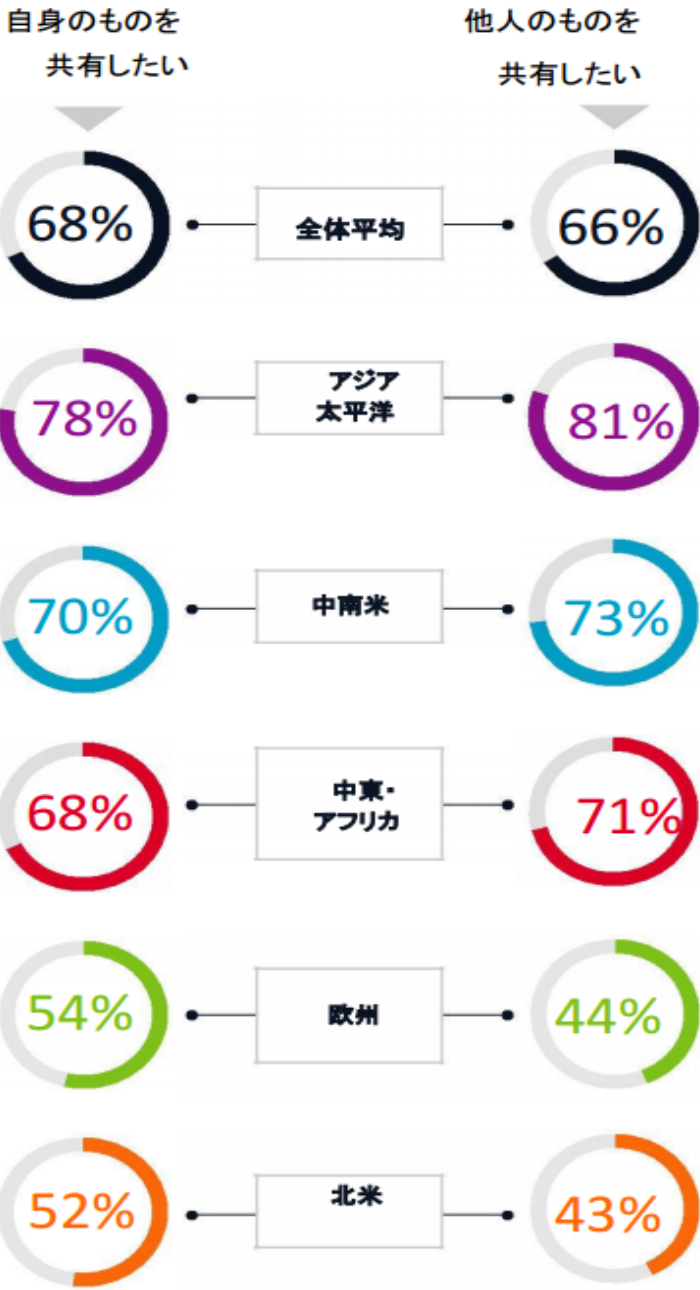
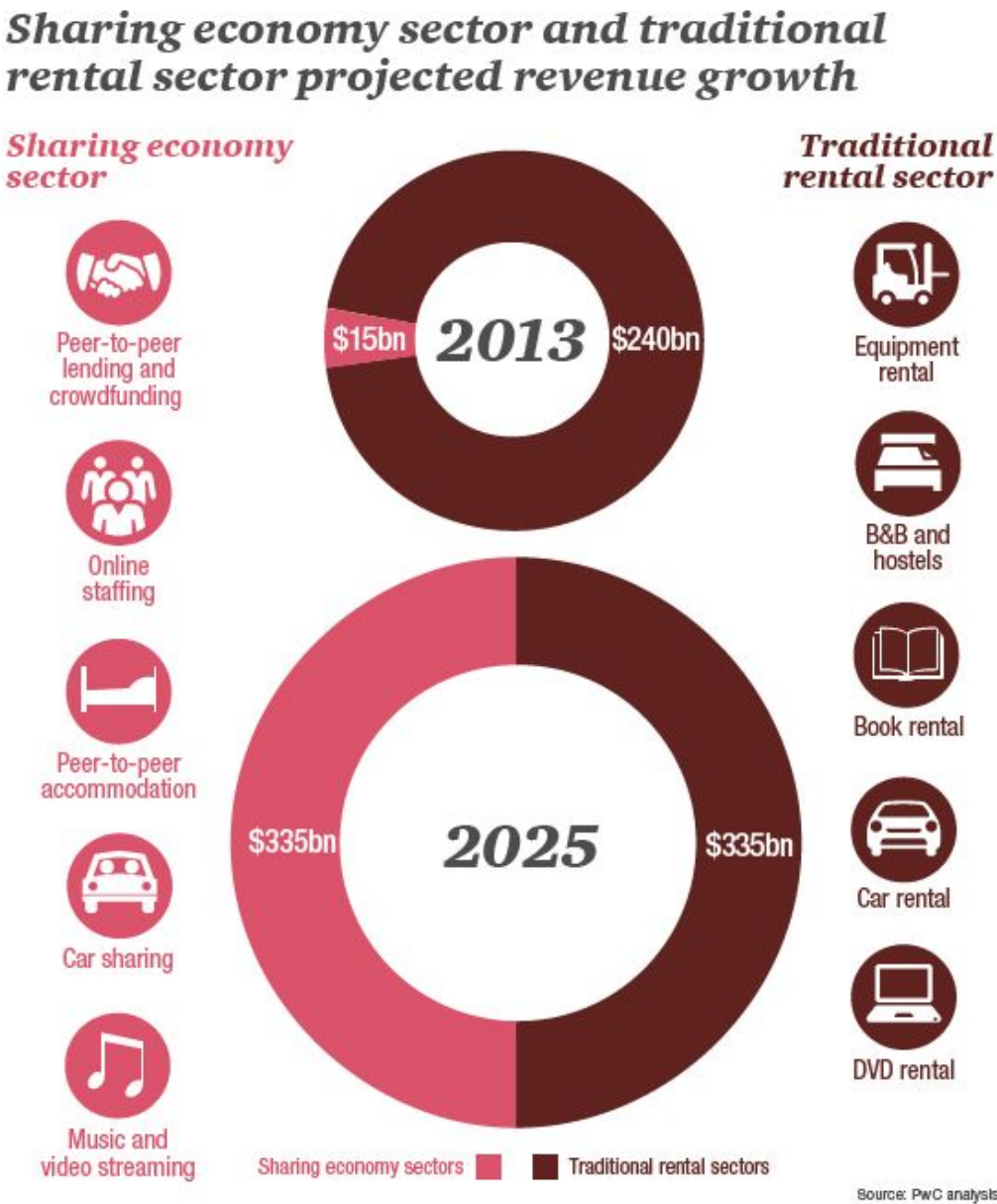
余ったリソースを需要と繋ぐ：
ピア・ツー・ピア（P2P）



シェアリングエコノミーへの期待

シェアリングエコノミーの市場規模は
2025年までに約41兆円に拡大

アジア太平洋地域はもの共有する
意識が最も高い



Source: Nielsen

“生産性革命によって、未来を切り開く。これが新たな成長戦略のキーワードです。”

“ITの活用によりシェアリングエコノミーを実現するなど、新たな発想によるビジネス機会が創出される社会など、『IT活用が原則となる社会』の構築を目指していく”

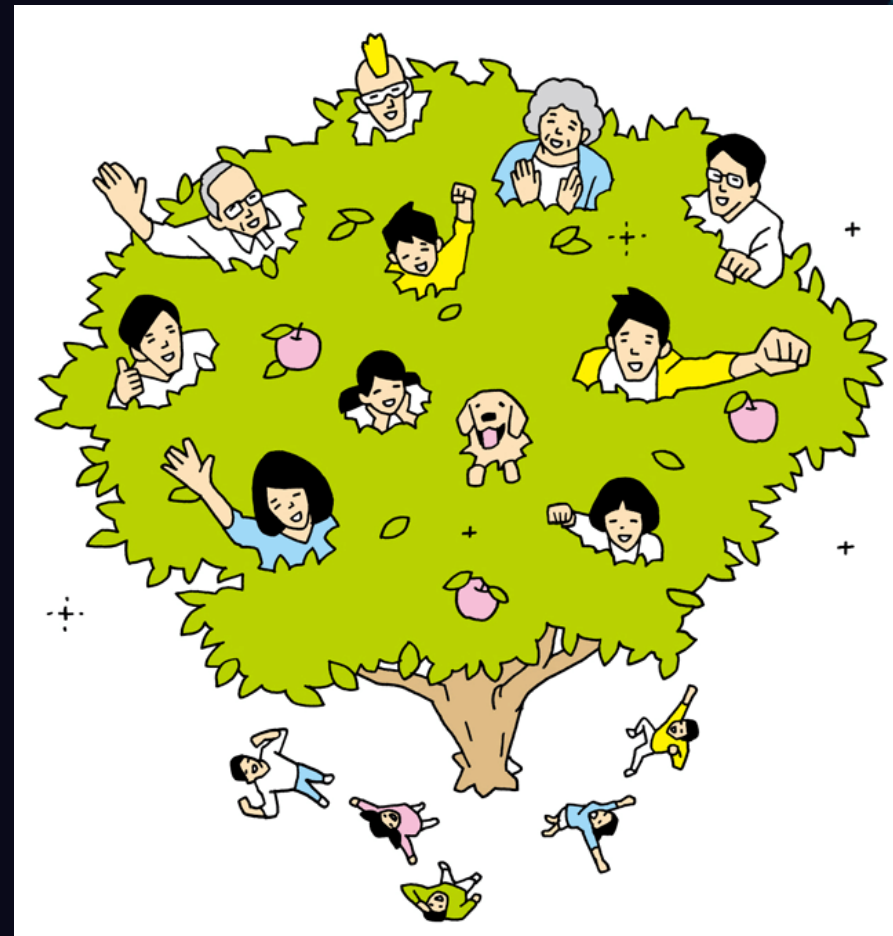
内閣総理大臣
安倍晋三



ライドシェアのメリット



①地方創生



②人財活用



③東京オリンピック

①地方創生

地方の直面する問題

- 過疎地での交通インフラ不足
- 地方の高齢化→移動手段の確保

地方住民の声

- 日常の買い物に不便を感じる
(60歳以上の男女のうち16%)
- 公共交通に不満
(過疎地に住む人のうち約40%)



②人財活用

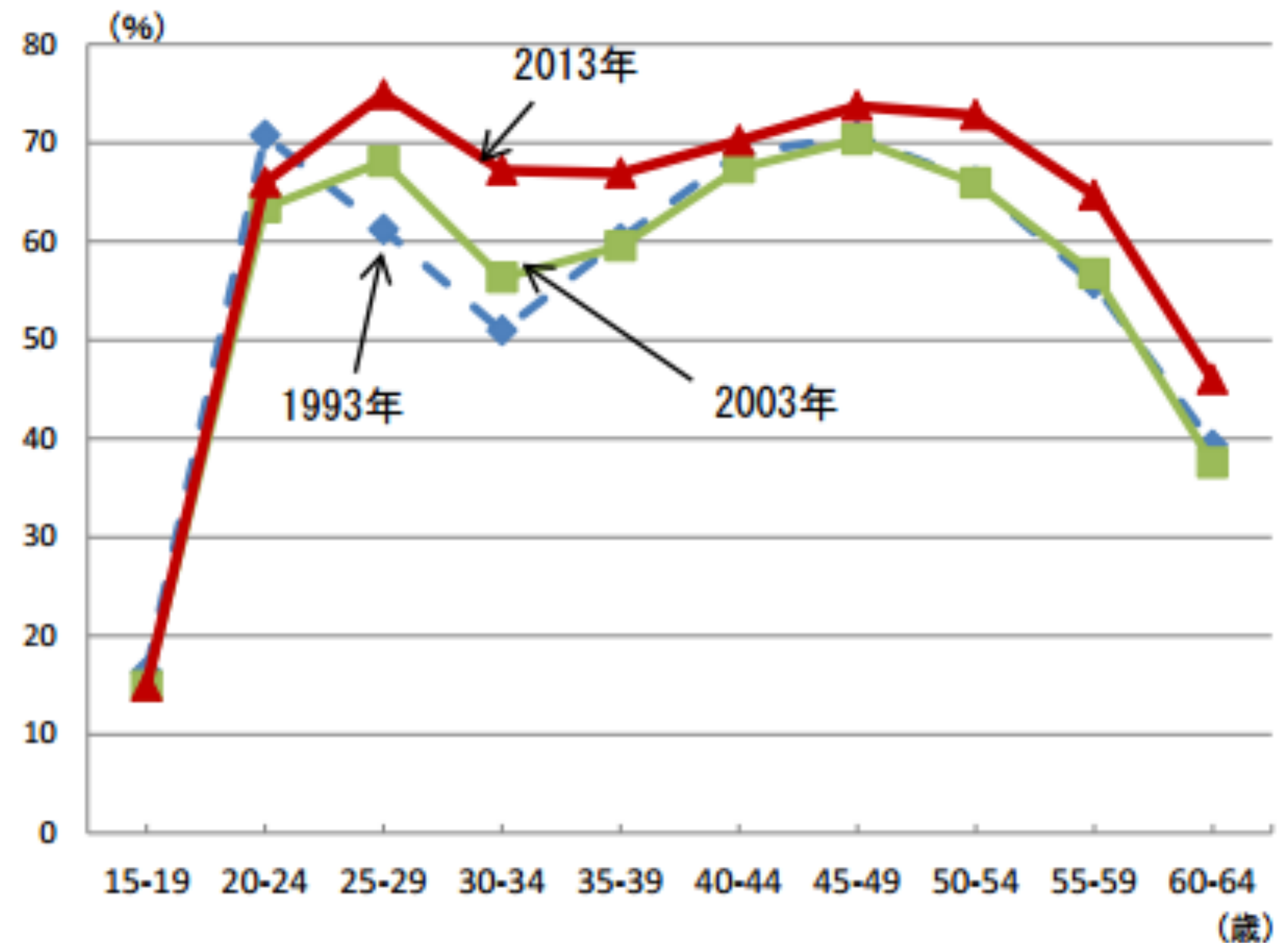
女性の活躍と経済成長

- ・女性の就業率を73%に
- ・労働力人口の減少を防ぐ

現状と課題

- ・M字カーブが現在も残る
- ・フレキシブルな就業体系の整備

図1 年齢階級別就業率(女性)



参照元:総務省統計局

③東京五輪

訪日外国人旅行客の増加に向けて...

- ・日本各地での交通移動手段の整備
- ・空港アクセスの利便性向上
- ・東京湾岸地域での交通インフラ不足



TOKYO ● 2020



THANK YOU